

連載：原点

「なぜアクティブ・ラーニングが必要か？」

佐原白楊高等学校 千田 晃久

今日の学校教育のキーワードとしてよく耳にする言葉といえば「アクティブ・ラーニング」であろう。このアクティブ・ラーニングには私自身も非常に興味があり、私もその必要性を強く感じている。しかしアクティブ・ラーニングの普及の現状に疑問を感じる。それはアクティブ・ラーニングを行うことばかりに注目が集まり、なぜ必要かという趣旨が十分に周知されていないという点である。

私は学生時代、自分が将来、教員になるとは全く考えていなかった。むしろ学生時代の私にとって、教員とはなりたくない職業の一つであり、そのため大学卒業後は一般企業に就職した。そんな私が教員を目指したきっかけは、その会社での「挫折」した経験にある。

高校受験、大学受験と第一志望の学校に合格し、また大学生活も有意義に過ごしていた私はそれまで大きな挫折を経験したことがなかった。そのため入社したばかりの私は「自分なら社会人としてもやっていける」という自信に満ちていた。しかし、実際に仕事を始めてみると今まで生活してきた学校がいかに狭い世界であり、その中で生活してきた自分が社会に出たときにいかに無力であるかを気づかされた。授業を受け身で聞いていればよかった学校に対し、会社では自分から積極的に行動することが求められる。学校で取り扱う問題には必ず答えが存在するが、会社で取り扱う問題のほとんどに答えはなく、その中で自分なりの解答を考えなければならない。今まで学校で学んできた知識や経験だけでは歯が立たず、入社当初持っていた自信はみるみる打ち砕かれていった。それとともに感じたことは、勉強はもちろん学校教育で、社会を生き抜く力を身につけたかったということだ。生徒たちにこの力の必要性を伝え、そして育んでいきたいという思いが、私が教員を目指すきっかけとなった。

この社会を生き抜く力を育てるという考えの中で生まれてきたのがアクティブ・ラーニングであろう。生徒が能動的に学習する授業を展開することで生徒の主体性や課題解決能力が育ち、社会を生き抜く力を育成できるといった趣旨がアクティブ・ラーニングにはある。しかし現状ではそういった趣旨が置き去りにされ、アクティブ・ラーニングという言葉だけが一人歩きし、その結果アクティブ・ラーニングを行うことだけが目的化していると感じる。学校教育の目標は生徒たちに、今後予測ができない変化をする社会を生き抜く力を身につけさせることである。

今後の教員生活において、前述したアクティブ・ラーニングの目的を常に頭に入れ、その目的達成の手段としてアクティブ・ラーニングを活用していく。更に生徒たちにその目的を十分に伝え、その必要性も十分に理解させていきたい。しかしながら現在の私はアクティブ・ラーニングを行う以前に、基礎的な授業力が十分に身につけていない。まずはその力をしっかりと身につけその後、さまざまなアクティブ・ラーニングの手法を取り入れていきたい。